

# Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信

16 (通巻20号)

平成16年11月12日発行

- 読者の皆さんによる特別号 -

【目次】

特別号にあたって .....	1
市町村発！ こんなのをきました .....	2
地元ならではのレファレンス	幕別町図書館 木村園美さん
羅臼昆布が製品になるまで	羅臼町公民館図書室 菊地聖恵子さん
二宮金次郎像はどこに..。	北広島市図書館 蛸名優子さん
市町村発！ こんながあります(レファレンスブック編) .....	4
『読み』を調べる	旭川市中央図書館 稲荷桂司さん
『民俗語彙』を調べる	帯広市図書館 笠井典子さん
『登場人物』を調べる	苫小牧市立中央図書館 北島靖英さん
『遊楽部の開拓』を調べる	八雲町立図書館 佐々木一也さん
『歴史』を伝える	留辺蘂町立図書館 大林清司さん
市町村発！ こんながあります(インターネット編) .....	7
いゝ歌を歌うために！	新得町図書館 菊地幸一さん
雑誌・新聞なんでもござれ！	石狩市民図書館 清水千晴さん
国の統計から地元の情報まで	江別市情報図書館 難波道子さん
司書の仕事はいろいろ...	恵庭市立図書館恵庭分館 本間羊一さん
困った時にはやはり「Google」！	奈井江町図書館 栗原真実さん
レファレンス・サービスのための工夫 .....	10
《通巻20号記念》Do-Reを評する！ .....	12
『Do-Re』の茶目っ気に期待しています	訓子府町図書館 山田洋通さん
レファレンス事例の交流を	旭川市東光図書館 杉山一彦さん
たかが「索引」、されど「索引」	福島県立図書館 吉田和紀さん
何度もひもとく便利帖！	くにたち中央図書館(東京都) 藤村せつ子さん
輝やけ北海道！羽ばたけ「Do-Re」！	小平市中央図書館(東京都) 蛭田廣一さん
『Do-Re』にあるレファレンスのこころ	藤女子大学 下田尊久さん
『しらべま専科』と『Do-Re』がゴールド・メダル	富士大学 斎藤文男さん
News .....	16
1 平成16年度秋期移動図書館事業、及び上川北部公共図書館(室)職員研修会に参加	
2 ホームページに各種様式アップ	
3 『実践型レファレンス・サービス入門』発刊	
4 『中・高生のための学校図書館利用テキスト』発刊	
5 恵庭市立図書館、ホームページに「相互貸借条件」掲載	
6 『ウィークリー出版情報』に道内公共図書館から発信！	
7 必見！“リーガル・リサーチ練習帖”	
8 第46回北海道図書館大会に参加	
編集後記 .....	17



## 特別号にあたって

当誌は、平成12年10月にテスト版として創刊。以来、足掛け5年。今号で通巻20号となります。年4～5号の頻度で、道内の公共図書館（室）職員の誰もが、気軽に興味を持って読んでいただける誌面づくりを心がけ、毎号“ネタ”に知恵を絞りました。

道内公共図書館におけるレファレンス業務の推進を図るよう、当課における事例やレファレンスに関する旬な情報を盛り込み、また市町村立図書館（室）とのコミュニケーションの場となるべく、毎号「市町村図書館（室）」からの発信も求め、掲載してきました。

そこで通巻20号を読者（市町村図書館）の皆さんでつくる特別号として企画しました。

通常の連載枠である「こんなのきました（レファレンス事例）」を3名に、「こんなのあります」をレファレンスブック編とインターネット編に分け、各々5名に寄稿していただきました。併せてそれぞれに「レファレンス・サービスのための工夫」を挙げていただきました。

また、記念号（節目）の視点で、特に次の方々から本誌に対するご感想・ご意見等をいただき、「Do - Reを評する！」として掲載させていただきました。

訓子府町図書館 山田洋通さん  
福島県立図書館 吉田和紀さん  
小平市立中央図書館 蛭田廣一さん  
富士大学 斎藤文男さん

旭川市東光図書館 杉山一彦さん  
くにたち中央図書館 藤村せつ子さん  
藤女子大学 下田尊久さん

通巻20号で20名の寄稿です。

市町村図書館（室）の皆さんの事例・情報は、実際の利用者とのやり取りを垣間見るようで、当館の協力レファレンスだけでなく、他の図書館（室）においても大いに参考になるものではないでしょうか。

「Do - Reを評する！」では、お褒めの言葉を多くいただきましたが、過分の評価と期待には、今後の維持・継続を思うと身が引き締まります。

お忙しい中、今回の企画についてご理解いただき、快く寄稿して下さった皆様に心から感謝申し上げます。

今後も、読者の皆様の声を反映させ、本誌の充実に向けて精進して参ります。

どうぞよろしくお願い致します。

参考調査課一同

## 地元ならではのレファレンス

幕別町図書館 木村園美さん

「『町立糠内中学校の元英語教諭が、ごく最近、糠内の郷土資料を編纂した。』と知人から聞いた。書名も内容もわからないが見たい」とのレファレンス。曖昧な点が多かったが調査を開始。

まずは、糠内の郷土資料を編纂という点から、自館のそれらしき資料『写真集糠内開拓百年』(2003)を調査。その地区の家系図(写真添付)が主なため、該当資料ではないと判断。次に、「ごく最近」ということから糠内中学校に照会するが、判らない、見当もつかないとの回答。

そこで、小学校の副読本などを編集した当時の幕別町教育研究所長、また平行して糠内地区の住民にも照会。両者とも、「管内でもアイヌの研究で著名な元社会科教諭ではないか」との回答。町内在住のその方に照会すると、15年位前に糠内中学校で郷土クラブをつくり、活動の中で開拓記念碑等を調べ冊子にしたことはある、ということだった。しかし、「ごく最近に編纂」と「元英語教諭」という二点と一致しないため、該当資料ではないと判断。

再度、利用者に聞き取りをすると、知人が帯広市内ホテルの社長で幕別町出身と判明。再び、前述の『写真集糠内開拓百年』を確認。家系図に名が記されていることから、知人は糠内地区出身と確定。出版年も2003年刊でごく最近と言える。家系図添付の写真撮影を受け、編纂を知り利用者に伝えたのでは、とも考えられる。更に編者の家系図をくまなく見ると、編者は私の中学時代(H1-3年)の英語担当教諭。糠内中学校に編者が在籍していなかったかを確認。S28-36年まで在籍していたと云う。中学校の元英語教諭が編纂という点が一致したため該当資料と判断。利用者の確認も取れ、以上で調査を終了。まさか、私自身が回答に繋がるとは思ってもみなかった、地元ならではのレファレンスだった。

## 羅臼昆布が製品になるまで

羅臼町公民館図書室 菊地理恵子さん

羅臼といえば「日本一の羅臼昆布!」全国的に知られるこの昆布は、オニコンブという品種で、真昆布・利尻昆布・羅臼昆布は御三家といわれています。「六十手数の折り昆布」といわれるほど手間がかかる製品で、自然相手の重労働によって完成します。

郷土学習などでは「昆布が製品になるまで」を学ぶため、教材について相談を受けることがあります。しかし、「六十手数」もの過程を記述した資料となるとほとんどありません。

このテーマのみならず、子どもが自分で読める資料というのは非常に限られており、一般向けの資料を先生に解説していただくようお願いするなど苦労しています。

子ども向けの昆布製品についての資料としては、地元を描いた絵本『日本をあるいて絵かきになるんだ』(関屋敏隆作 小峰書店 1998)の中に、昆布が製品になるまでを ~ として描いたものがあり重宝しています。また、映像で良ければ、羅臼漁協制作のビデオ『知床名産 北の逸品ラウス昆布』(25分30秒)があります。

さらに、2年前に教育大の学生が作成した『こんぶ』(28p)という手作りの資料を、人を介して入手。本人の許可をもらい、5部クリアファイルに入れて貸し出し出来るようにしました。イラストや写真を豊富に取り入れ、楽しく読めるようになっていますし、地元での体験と聞き書きで子どもにも興味を持てるように作られています。

地元密着レファレンスには、こうした手作りの資料がとても貴重で、特に子ども向けの資料については、今後も職員が協力して小さなアンテナを張っていきたいと思っています。

## 二宮金次郎像はどこに…。

北広島市図書館 姥名優子さん

### 質問内容

北広島市内の小学校の校庭(グラウンド)や校舎内、他の施設に移されている場所に存在する「二宮金次郎像」がある箇所を知りたい。かつて存在したが、現在なくなった経緯も知りたい。

### 調査と回答

「そうそう、小学校の時代に校舎で見たことがある」という人も多いのではないのでしょうか。ところが、調べてみると北広島にはほとんど残っていませんでした。他の市町村ではどうなっているのでしょうか？少し気になります。

「二宮尊徳(幼名を金次郎)」は教育の場において明治30年代から修身の手本として顕彰されるようになる。-中略-薪を背負って書を読む少年金次郎の像を小学校に建てるのが広く行われるようになるのは、昭和に入ってからのもので、当初は銅像であったものが、戦時中の金属供出によって石像にかえられたものが多い。戦後最初に発行された1円札の図柄も尊徳の肖像であった。

『世界大百科事典 全31巻』(平凡社 1988)より

### 現存する2体の像

現存するのは、西部小学校(輪厚地区)の校庭に建っている陶製の像と廃校になった仁別小学校の校長室に飾ってあった20~30センチの銅像2体のみで、仁別にあった銅像は現在、東記念館という市内の施設で資料として保管しているということです。西部小学校の像はもともとは銅像で、当時の村報(昭和11年1月31日付)に昭和10年12月22日に行われた除幕式の記事が写真付で掲載されています。しかし、戦時中に軍に供出され、その後に地域の方の働きかけで陶製の像として復活したということらしいです。

## 東部小学校の金次郎像

昭和10年11月10日付の村報に同年10月18日の除幕の様子が写真付で掲載されています。建立当初のことは明らかですが、銅像の無くなった時期や理由はどこにもなく、詳細については一切わかりませんでした。

これらは学芸員と広報(当時の村報)等から情報を得ました。確かな記録は資料では一切残っていません。学校にも記録が残っていないようです。時間の経過とともに当時を記憶してる方以外、記録がなくなってしまふのは、さびしい気がします。やはり、「郷土資料はその町の歴史」だからこそ、大事に保存し後世に残していかなければならないと感じました。



期せずして地域関連のレファレンス3題となりました。

道立図書館では北海道関連のレファレンスは北方資料室が担当しているため、地域レファレンスを『Do-Re』に取り上げる機会がありませんでした。しかし、地元とより密接に関わっている市町村図書館(室)と地域レファレンスは切っても切れない関係であり、実際の回答に到るまでの状況を見ると、レファレンスは周辺の人や機関との連携が重要なのだなと感じました。

そして地域の情報をどのように図書館に残していくのか、このことがこれからの図書館の大きな課題の1つである、と感じました。

## 『読み』を調べる

旭川市中央図書館 稲荷桂司さん

図書館には多くの「言葉」に関するレファレンスが寄せられますが、今回はその調査に役立つ隠れた名著をご紹介します。

すでに第2版が完結した小学館の『日本国語大辞典』は、現在最大の約50万の項目が、すべて漢字から検索でき、音訳ボランティアの方々への福音となりましたが、かつて収録数で「七十余万」を誇った辞典がありました。『大辞典 全26冊』(平凡社 1934 - 1936)です。これは国語・古語・百科などを集約した辞典として刊行され、戦後2度の縮刷版が出るほどの好評を博しました。現在それほど利用されていないのは、記述が日漢字日仮名遣いのためでしょうが、豊富な語彙がそれを補って余りあります。例えば室町から江戸、明治・大正にかけての俗語を大量に収録し、国語・古語辞典の狭間を埋めています。さらに巻末の「頭字難訓索引」で難読の語彙が検索できるなど、もっと見直されていれツールだと思います。現在もインターネットの古書検索サイトで見ると、全2巻の縮刷版(ルーペ付き)が5千円程度で結構出ているので、かなりお買い得です。

『JIS漢字字典 増補改訂』(芝野耕司編著 日本規格協会 2002.5)も、その無味乾燥な書名から顧みられることの少ないツールです。これは日本語を電算処理するためのJIS規格に採用された文字の解説書で、実際にはひらがなやアルファベット、記号まで収録されている、日本語字典とも言うべきものです。漢字については、官公庁の地名データや保険会社の人名情報などを徹底調査して、現在の日本における漢字の用例を抽出し、慣用・誤用を含めた読みを掲載。「冠」から「カップ: 占冠(しむかつぶ)」が検索できるなど、語頭以外の漢字からも読みを調べることができます。また本文中に挿入された44件のコラムも読み応えがあり、文字と活字、文字と辞典の関係といった知識が得られますので、是非通読をお勧めします。

## 『民俗語彙』を調べる

帯広市図書館 笠井典子さん

「むしわらい」という言葉の意味が知りたい、というレファレンスがきたことがありました。

使いませんか、この言葉。そうです。生まれたばかりの赤ちゃんが寝たままニッと笑うあのことです。何にでも出てきそうです。しかしこれが出てきません。広辞苑、日本国語大辞典など、一通り当たってみました。出てきません。結局、当館の蔵書で載っていたのはただひとつ、今回紹介させていただく資料です。

『総合日本民俗語彙 全5巻』(民俗学研究所編 柳田国男監修 平凡社 1955 - 1956)

明治以降に報告採集された民俗語彙を整理し、五十音順にまとめた事典です。挿絵、写真、引用文などが収録されていて、50年前に出版されたものにしては理解しやすくなっています。また、各項目に分類部門を示し、総索引となっている第5巻には、五十音順索引と部門別索引を収め、巻末に引用文献目録(単行書、叢書、雑誌)を付しています。この分類部門が、居住、衣服、食習から、命名、謎、予兆、夢など、多岐にわたっており、32に分けられた部門別索引には、さらに小分類をして、解説まで付けています。

民俗関係のものを調べるとき、『日本庶民生活史料集成 全30巻別巻1』(三一書房 1968 - 1984)もよく使いますが、全巻通して五十音順になった索引が無いので一苦労します。その点からいうとこの『総合日本民俗語彙』は、いろいろな角度からアタックすることができて、調べやすいのです。日々の業務に追われ、刻一刻と過ぎてゆく時間の中で、迅速に回答できる資料は、利用者のためだけでなく、提供する側にとっても大変助かります。このレファレンス、平行してインターネットでも検索していました。

そこで出てきたのが『日本方言大辞典 全3巻』(尚学図書編集 小学館 1989.3)です。このあとすぐ購入しました。

参考文献:『日本の参考図書 第4版』

## 『登場人物』を調べる

苫小牧市立中央図書館 北畠靖英さん

「著者も書名も覚えていないが、という人物が登場する小説をもう一度読みたいのですが..。」

記憶に頼ることなく、こうした問い合わせの際に活躍してくれる資料をご紹介します。

『日本の児童文学登場人物索引 アンソロジー篇』(DBジャパン 2004)

1988年～2002年に国内で刊行された児童文学のアンソロジー476冊に収録された5,668作品の主な登場人物11,245人を採録し、学年・身分・職業/作品名/作家・挿絵画家名/収録書名/出版社/刊行年月を記載。人名のほか、“お父さん”や“子ぎつね”なども採録。

このほか

『歴史・時代小説登場人物索引 アンソロジー篇』(DBジャパン 2003.7)

『歴史・時代小説登場人物索引 単行本篇』(DBジャパン 2001.4)

『日本のミステリー小説登場人物索引 アンソロジー篇』(DBジャパン 2002.5)

『日本のミステリー小説登場人物索引 単行本篇 上・下』(DBジャパン 2003.1)

『翻訳ミステリー小説登場人物索引 上・下』(DBジャパン 2001.9)もあり。

『世界・日本児童文学登場人物辞典』(定松正編 玉川大学出版部 1998)

古今東西、わが国に広く浸透し、子どもに人気の人物が登場する作品から412項目をあげ、作品名/刊行年/作者だけでなく、人物解説・作品論も記載。一部作者紹介も付す。“お茶の水博士”や、“ぐり”、“ぐら”も載ってます。巻末に児童文学・文化年表。

『オックスフォード世界児童文学百科』(ハンフリー・カーペンター、マリ・プリチャード著 神宮輝夫監訳 原書房 1999.2)にも登場人物が項目として取り上げられている。

ほかに、『架空人名辞典 欧米編』(教育社 1986.12)

『架空人名辞典 日本編』(教育社 1989.8)など。

## 『遊楽部の開拓』を調べる

八雲町立図書館 佐々木一也さん

八雲の遊楽部原野に尾張徳川家の家臣団が入植したことは全道的にはあまり知られていません。尾張藩

は江戸幕府の御三家でしたが、幕末には藩祖義直の尊皇思想に基づき、藩内の佐幕派を押さえ、倒幕軍が濃尾平野を容易に通ることにし、明治新政府樹立に貢献しました。しかし、新政府の中では冷遇され土族の俸禄の廃止により窮乏するようになったので、徳川慶勝は、北海道開拓により、北方の警備で国に貢献しながら、家臣を救済しようと明治10年に吉田知行・角田弘業・片桐助作の3名に調査を命じ、遊楽部を開拓の地に決め、翌年より、集団的な開拓が始められました。開拓当時の数々のエピソードをはじめ、徳川農場の経営や開拓の苦労など多くの資料があります。

図書館では昭和51年に徳川義知遺族一同より、貴重な開拓の歴史に関する資料を寄贈いただき、昭和52年に徳川文庫が開設され、それ以降も寄贈が続けられ、これまでに、1,100冊程の蔵書となりました。また、愛知県小牧市との児童交流を機に小牧市より、『名古屋叢書』をはじめ、名古屋と八雲にかかわりのある資料を寄贈していただき、昭和59年に「名古屋市文庫」が開設されました。

なお、城山三郎著『冬の派閥』(新潮社 昭和57年刊)で八雲開拓の歴史が描かれておりますが、この部分の生原稿も城山三郎氏より寄贈いただき大切に保管されております。

以下主な資料の一部ですがご紹介させていただきます。

『実説名古屋城青松葉事件 増補改訂版』(水谷盛光著 名古屋城振興協会 1981.1)

八雲への移住のきっかけが描かれている。

『木曾山』(徳川義親著 大正4年)

尾張藩の木曾谷の歴史が描かれたもの

『村の創業 増補改訂版』(都築省三著 徳川家開拓移住人和合会 1968)

八雲開拓の様子が描かれた作品

『北海道在住愛知県人録』(菱田禄彌 大正7年)

愛知県から移住した北海道在住名簿

『私は見たデンマーク農業 第1集～4集』

(太田正治著 デーリイマン編集部編 日本デーリイマン協会 1953)

八雲の酪農家のデンマークでの生活をつづった作品

『ゆうらふ 1号～33号』(八雲郷土研究会 1968-89)

郷土研究会で八雲の各分野の歴史を取り上げた機関誌

## 『歴史』を伝える

留辺薬町立図書館 大林清司さん

図書館の使命として、保存も一つの重要な役割です。地域資料はもちろんですが、日本の伝統・文化を感じさせるものを伝えていくことも必要なことだと思っています。今回私がオススメするのは、「歴史を伝える」という視点から選んだ二点を紹介しようと思います。

まず『歴史資料大系 全 16 巻』(歴史教科書教材研究会編集 学校図書出版 2000 - 2001)は、近・現代の歴史資料を網羅したもので、特筆すべきところは戦後保存年限を過ぎた機密文書も掲載されており、非常に貴重な資料集成と言えます。さらに凄いのは、他国の教科書では同じ事象をどう表現しているのかを知ることができるということです。例えば、韓国併合を現在の韓国などはどのように教科書に載せているのかという比較検討もできたり、項目に関連する記事や記述を新聞や書籍から転載し見やすくまとめられています。金額的には安いものではありませんが、図書館としては所蔵しておく価値があるだろうとの判断で購入しました。昨年購入したのですが、利用の方はいまいちのようです。しかし、明治・大正・昭和という激動の時代の資料をつぶさに掲載しているこの資料は、いずれ貴重なレファレンスツールとして多くの利用者の手にとってもらえるだろうと信じています。単に調べものに利用するだけでなく、少々厚いのですが普通に読んでも楽しめるのではないかと思います。

次に『戦災等による焼失文化財 新版』(文化庁編 戎光祥出版 2003.10)は、戦災等の被害で焼失した文化財を編集したものです。今は存在しない日本の文化、技術の粋を極めた文化財を集めた貴重な資料であり、これは図書館で収集すべきと購入しました。

これらの資料の利用はあまりないかもしれませんが、図書館の重要な役割を果たすためには、10年に一度の利用であっても信念を持って収集する必要がある、との認識で集めた資料を紹介しました。



何の作意も無く、バラエティーに富んだ「こんなにあります -レファレンスブック編-」が集まりました。みなさんの職場での奮戦振りが透けて見えてくるようです。また、それぞれの資料に対する熱い思い(思い入れ?)が、その語り口から伝わってきます。

勝手な想像ですが、きっと、解決困難なレファレンスに遭遇して、苦勞の末に行き着いた資料だったのではないのでしょうか。

先輩が収集してくれていた古い資料に助けられるという経験は誰もお持ちでしょう。また、将来必ず役に立つと、清水の舞台から飛び降りるつもりで、大部の資料を選択することもあります。

「人に歴史あり」とはよく言う言葉ですが、「図書館にも歴史あり」と強く思いました。

それぞれにどこが“優れもの”なのか、資料の評価も適切に書いていただきました。お読みいただいた皆様にも参考になるとと思います。

## いい歌を歌うために！

新得町図書館 菊地幸一さん

レファレンス業務を遂行する上で、インターネットのサイトは、欠かせないレファレンス・ツールのひとつとなっています。

みなさんの職場でも、いろいろなサイトを「お気に入り」に登録して、レファレンス業務に活用されていると思いますが、当館でよく利用するサイトの一つに「Uta-Net」(<http://www.uta-net.com/>)があります。

これは、曲名や歌手名、歌いだしなどから歌詞の検索ができるサイトで、約30年前からのJポップおよび演歌のヒット曲およそ1万6,000曲が検索可能です。利用料金は無料ですが、会員登録が必要です。この歌詞検索エンジンは、曲名・歌手名・作詞者・歌いだしの4種類の検索に対応しており、歌詞の全文表示のほか、タイトル名、アーティスト名、作詞者、作曲者の表示もあります。収録数1万6,000曲というのは、通信カラオケの曲数とほぼ同数で、まさにカラオケボックスにある一覧本のインターネット版といえるでしょう。また、Uta-netの特徴として日本音楽著作権協会(JASRAC)の許諾(ストリーム方式)<sup>注1</sup>を受けていることがあげられます。

当館でこのサイトを利用するのは、主にカラオケ同好会のみなさんからのレファレンスの場合です。もちろん資料としては、『新版日本流行歌史上・中・下』(古茂田信男〔ほか〕編 社会思想社 1995)などがありますが、あくまでも解決の糸口としてこのサイトを使用する場合があります。

先日美空ひばりの「みだれ髪」の歌詞を調べたところ、さらに歌詞の中ででてる「塩屋の岬」の場所と写真が見たいということで、『日本地名大百科』(小学館 1996)『日本の灯台 山崎猛写真集』(ぎょうせい 2000)の提供と、途中でレファレンスがどんどん広がることもしばしばです。

カラオケ同好会会長さん曰く、「やっぱり歌詞を理解しないと、いい歌は歌えないよ！」

参考になりましたら、是非ご利用ください。

注1)ストリーム方式とはダウンロード不可の音楽を流しているだけのHP。

## 雑誌・新聞なんでもござれ！

石狩市民図書館 清水千晴さん

## 「バックナンバー記事検索」

(<http://www.shogakukan.co.jp/magazines/index.html>)

1998年6月以降発売になった小学館の雑誌の全目次が検索可能。検索結果としてまず掲載記事の記事タイトル一覧が表示され、さらに展開すると当該雑誌の表紙画像、書誌情報、目次及び各掲載記事の内容、掲載ページが確認できます。NDL-OPACの雑誌記事索引では採録されていない『サライ』や『BE-PAL』、『女性セブン』といった一般雑誌の他、コミック雑誌や『小学 年生』シリーズのような学習雑誌も含まれています。

## 「デジタル版新聞記事文庫」

(<http://www.lib.kobe-u.ac.jp/sinbun/index.html>)

神戸大学経済経営研究所が蓄積していた新聞切り抜き資料(「新聞切抜文庫」)を、神戸大学附属図書館がデジタル化したもの。採録記事は経済・経営関係資料を中心に全般に渡り、抄録対象紙には全国/地方紙の他に旧植民地発行の新聞が含まれています。抄録期間は明治末～昭和18年です。昔の新聞を画像で確認できるとともに、文面はテキスト化されているため読み易くなっています。現在も主題別の分類単位で入力が進められており、最終的には38万件の記事の画像・テキスト両データがアップされるようです。

「版元ドットコム」(<http://www2.hanmoto.com/>)

現在45の版元が参加・運営しているサイト。北海道の版元では亜璃西社が参加しています。書籍検索でユニークなのは「全文検索」です。検索データベースには基本的な書誌情報の他に内容紹介、目次、著者プロフィール、前書きなど本の一部や版元からの一言が入力されていて、これら全文が検索対象になります。

また各版元の社員が持ち回りで毎週コラムを綴っている「版元日誌」では、現場の生の声から業界全体への問題提起などが読み、同様の出版に関する業界専門紙のサイト「新文化」(<http://www.shinbunka.co.jp/>)とは、また違った角度から情報を得る事ができます。



## 国の統計から地元の情報まで

江別市情報図書館 難波道子さん

雑誌の記事検索といえば大宅壮一文庫の雑誌記事索引検索が定番ですが、当館では利用できないので、主に国立国会図書館の雑誌記事索引検索を利用しています。そのため採録誌一覧に入っていない雑誌を調べるのは苦労します。

そんな中、小学館のHPで見つけたのが「雑誌目次キーワード検索」です。1998年6月以降発売になった小学館の雑誌の全目次から内容検索ができます。

### 「小学館雑誌目次キーワード検索」

(<http://www.shogakukan.co.jp/magazines/index.html>)

レファレンスにおすすめというほどではありませんが「こんなにあります」というのをいくつか。

国土地理院のサイトでは全国の2万5千分1地図を見ることができます。その地図上で、参考値としてですが経緯度座標を調べられます。ちなみに道立図書館は北緯43度4分11秒、東経141度30分1秒あたりだそうです。他に、子どもの自由研究向きとして「さっぽろお天気ネット」「統計局 なるほどデータforキッズ」「文化庁日本文化冒険隊」など、見やすい画面でとても便利です。

### 「ウォッチず 地図閲覧サービス」(試験公開)

(<http://watchizu.gsi.go.jp/>)

### 「さっぽろお天気ネット」

(<http://www.sweb.co.jp/tenki/>)

### 「統計局 なるほどデータforキッズ」

(<http://www.stat.go.jp/kids/index.htm>)

### 「文化庁 日本文化冒険隊」

(<http://www.bunka.go.jp/kids/>)

最後に地元のPRを。今年「江別ブランド事典」というサイトが出来ました。市民7千世帯のアンケート取材をもとに、江別の特産品、お店、地域内の建造物、人物、観光スポット、自然環境など、新しい情報を紹介しています。江別自慢のこのサイト、近くに来られる際はぜひ覗いてみて下さい。

### 「江別ブランド事典」

(<http://www.ebetsu.city-brand.jp/>)

## 司書の仕事はいろいろ・・・

恵庭市立図書館恵庭分館 本間洋一さん

いきなりレファレンスとは離れますが、当館でとにかくよく使うのは

### 「Yahoo!天気情報」

(<http://weather.yahoo.co.jp/weather/jp/1b/1400/1231.html>)

単館・管理人ナシ・常時2名勤務の恵庭分館では、外回りも室温調整も図書館司書の仕事。ゴミ拾いなどの作業が雨とぶつからないようにダンドリをつけたり、予想気温を確認して20ヶ所以上ある窓の開け閉めを決めたり、天気が悪いようなら南の壁一面が窓ガラスになっている閲覧室のブラインドを全て上げたり、晴れ&気温高&強風の日はブラインドがガチャガチャとうるさいので窓をすき間程度に開けたり、等々。一日300冊強の貸出し冊数ではありますが、「司書役」と「管理人役」を同時にこなすのはダンドリが勝負。天気情報は、天候に左右されず、効率よく仕事を片付けていく大きな武器となっています。

ライトノベル系の文庫に力を入れている図書館さんにおすすめするのが

### 「FANTASY Bookmark」

(<http://www1.odn.ne.jp/yuzawa/>)

個人サイトです。各社の出版予定情報をいち早くキャッチすることに労力を割いており、気の早い利用者からの問い合わせにも迅速に対応できます。出版社公式サイトへのリンク集もあり、こちらも便利。ライトノベルは中・高校生向けの必殺アイテム。利用&貸出アップに大いに貢献してくれますよ(紛失も多少アップするかも知れませんが...)

### 「WEB本の雑誌」

(<http://www.webdokusho.com/>)は、ご存知の方も多いでしょう。

読者参加型の名物コーナー「読書相談室」は、正に図書館における読書相談そのもの。相談員の名回答も見ものですが、それよりも「読者(利用者)は、こんな要求を持っているのかぁ」という新鮮な驚きがあります。すでに書籍化もされています。同様の企画として「bk1はてな」(<http://bk1.hatena.ne.jp/>)も登場し、我々図書館員も負けてはられませんね。

困った時にはやはり「Google」！

奈井江町図書館 栗原真実さん

当館は未だ逆ブラウ方式の貸出を行っているような図書館ですので、正直、「インターネットでレファレンス」といっても、たいしたことはできておりません。有益なサイト情報等は他の方にお任せいたしまして、私は素人クサイ体験談などを紹介しようかと。

過去に行ったもので、「これはネットじゃなければ回答できなかった！」というケースがありました。2002年3月、年配の男性が来館され「道新でみたのだがシラカバに生えるキノコがガンに効くらしい。アガリクスより効くというのだが詳しいことが知りたい」との要旨の質問をされました。手がかりは道新ですが、いつの新聞で見たかははっきりしないとのことで、実際その日から1ヶ月前ほどまでさかのぼって新聞をざっと探してみましたが該当記事は見つかりませんでした。

これ、今ならネットなど使わなくてもすぐ回答できます。有名になりましたから。ただ、この時点ではまだ無名のキノコ。心の中では「そんなんあるのかよ！夢でも見てんじゃないの？」という気持ちでした。

一縷の望みをかけて Google 検索に。キーワードは「シラカバ キノコ ガン」で入力。そういえば実は私、この調査中にはじめて Google 検索のキーワード入力、順番を変えるとひっかかるサイトも微妙に変化するということを知りました。この時は、前述の順番が一番良かったようです。

また、Google 検索する際は、@nifty ホームページのように「別窓で開く」があるところを利用するのが良いと思っています。サイト迷子を防いでくれる／これは使えそう...と思うサイトをキープできるなど便利。

何はともあれ、ひっかかったサイトを見てみると、あるではないですか！「カバノアナタケ」「シベリア霊芝」「白樺芝」など名称はさまざまですが、ああこれだ！というモノが紹介されています。健康食品サイトなどだと、効能はちょっと怪しげ～な気はしますが、紹介されているキノコの情報は間違いはないであろうと思うのでとりあえずプリントアウト...そのまま利用者に渡すのはダメって法が言うから、手書きで情

報をまとめて(大変だった)もちろん、利用者がコンピュータ使用できる場合に備えてサイトのアドレスも書き写して準備完了！

で、おまたせしましたオチですよ。それなりに苦労して準備したその日の夜、6時から入ってる「ニュースの」にて「今日の特集はガンに効く幻のキノコ...って、それ、今、私が苦労してまとめたヤツだよ！職場のTVでコッソリ見たら、まとめた情報とほとんど同じ内容の放送でした。ギャブ！「新聞で見た」ってテレビ欄かよ！レファレンスにおいて最大の盲点と見た。

さておき、個人的に、情報を探す際には、書籍媒体が「斜め読み探し」ができたりする点で大変便利だと思います。インターネットの場合、サイト情報の整理をきちんとしていない限り、いったんキーワード等で検索して、ひっかかったサイトからまた使えそうなものを選択して...と手間がかかるのが難点。ですが、やはり利用者からの雲をつかむような質問に回答するにはネット検索しかないとも思っています。まだまだこの世界ヒョッコですが、もっと色々使いこなして、より利用者の助けになればと考えております。

そのマチそのマチの図書館のレファレンスの様子が、手に取るように伝わってきますね。

ここで紹介されたサイトは、当課ではあまり知れわたっていないものも種々あり、早速インターネットの「お気に入り」に、新規登録や再整理されることとなりました。(情報ありがとうございました!!)

世の中にあふれかえるインターネットサイト。その中でも自分で「便利だ！」と思い、「お気に入り」に登録はするものの、記憶のかなたに埋もれていくサイトも多いのが現状です。でも、このような「いちおしコメント」があれば、そんな隠れた宝石を掘り起こしてくれそうです。

そして、レファレンスにインターネットを用いる時には、「そのサイトの信頼性は(確かな情報なのか)?」「いつの情報なのか?」「冊子体の資料で確認は取れるのか?」などのことを、常に念頭においておかねばならないですね。

## レファレンス・サービスのための工夫

住民のみなさんに、レファレンス・サービスをいまひとつ気軽に利用してもらえない。あるいは、利用者からの質問に、一瞬間の中が真っ白になり、冷や汗をかいたといったことは、誰も思い当たることと思います。もっともっとレファレンス・サービスを身近なものに、また、迅速・的確に答えていくために、各図書館で工夫されている「あれこれ」を、お寄せいただきました。

まずは利用者が何を求めているのかをしっかりと把握することが重要であり、これを徹底して行う。その上で、対応を協議するが自館資料で足りない時には、他館の協力を仰ぎながら必ず提供するように努めている。このサービスのPRも積極的にやっているが、なかなか浸透しないようで、利用は多くありませんが、今後も地道にPR活動を続けようと思っています。

<留辺薬町立図書館 大林清司さん>

当館には「レファレンスカウンター」と「こどもカウンター」があり、常に司書を配置できるようなローテーションを組んでいます。気軽に声をかけていただけるように、カウンター内にはブックトラックや物理的に大量になる仕事は持ち込まず、ゆったりとした態勢で座っているように心がけています。

<石狩市民図書館 清水千晴さん>

「引いた態度を見せない」～前のめりになって話を聞く。こちらのやる気を見せるため。

「長い話でも最後までつきあう」～ 1) 核心が見えてきやすい 2) 印象アップ

「長くなる調査は、随時経過報告をする」～受付時に必要かを確認。利用者も安心。

<恵庭市立図書館恵庭分館 本間洋一さん>

当館、司書ひとりぼっち図書館なので工夫といえるほどのことは行ってないです。ただ、独りなぶん、トータルで仕事にかかわるので自館蔵書の覚えはいいほうではないかと思います。特に、蔵書点検は基本カードと照らし合わせ、本を探しチェックといういろんな意味で過酷なものなので、その際に蔵書が頭に入っているようです。やっぱり工夫でも何でもありません。

<奈井江町図書館 栗原真実さん>

特に目立った工夫はないと思いますが、棚を見ながらウロウロしている利用者がいたら職員から積極的に声をかけています。他には、記録を残し、後に同じようなレファレンスが来たときに役立つようにしています。

<北広島市図書館 蛭名優子さん>

レファレンス業務自体まだまだ知られていない面があるので、広報等で積極的にPRしている。

レファレンス記録票を蓄積し、職員間でレファレンス体験を共有化している。

利用者が気軽に声をかけられるように、フロアワークをまめにしている。

他館と情報交換を行うことで、レファレンス能力の向上に努めている。

<新得町図書館 菊地幸一さん>

平成11年に図書館が新築され、レファレンスサービス・リクエストの件数も急激に伸びた。毎日朝礼（奉仕係6名）でレファレンス等の処理について確認を行う。レファレンス依頼一覧表をファイルでまとめる。日常館内の見回りと合わせ、利用者との対話を積極的に行う。毎月発行の図書館だよりでも周知する。  
<八雲町立図書館 佐々木一也さん>

一般的なことで、難しい問題には複数の職員で当たったり、レファレンス記録をとり情報の共有を図っています。また、過去の便覧や人名録で人物紹介がされている旭川地方の郷土人をExcelで入力し、どの資料で紹介されているかが検索できる、伝記資料索引を作成中です。不完全ながらそれなりに役に立っています。  
<旭川市中央図書館 稲荷桂司さん>

小学生からのレファレンスで多いのが、郷土の名産品調べです。対応のひとつとして、企業パンフレット・チラシ・パッケージの収集などを心掛けています。お菓子の箱に入っている、商品説明のちょっとしたメモが役に立つこともあります。もちろん味見もしています。  
<江別市情報図書館 難波道子さん>

社会教育課が作成した『ふるさとらうす再発見』発行の際は「こんな資料があると便利」など要望もしつつ、資料提供や協力をしました。地元を知るための資料は、貴重なので、できたものにルビをふって子ども向きに加工するなど工夫しています。  
<羅臼町公民館図書室 菊地理恵子さん>

郷土関係で、活字資料で対応できない時。昔の事は昔の人に聞く、地元の生き字引を大切にしよう、ということで、役場職員から年配の掃除を担当する職員らを巻き込みます。町出身者が多く、内部でも分からない場合、知っていそうな住民を紹介してもらえるため貴重な情報源となっています。なお、必ず数人に聞き、一致したら回答としています。  
<幕別町図書館 木村園美さん>

当館郷土資料室には雑誌記事検索データベースという秘密兵器があります。（反応は切れかけた蛍光灯風ですが・・・） 検索対象は大部分が十勝・帯広発行のものですが、道内全般では『北方文芸』・『北海道の文化』・『新しい道史』も検索できます。十勝・帯広に関するレファレンスでお困りの際は是非声をかけてください。  
<帯広市図書館 河原康博さん>

寄せられた工夫のそれぞれに、大事な要素が沢山含まれていました。利用者への働きかけ、PR、自館資料を熟知し使いこなす、記録の活用を含め情報の共有化、有効な資料・情報の収集・活用、ツールの作成、一人で抱え込まない、専門家・他機関との連携など、人事異動等で担当者が替わったとしても、引き継いでいきたいことばかりです。

当課では、月末休館日の課の打合せ時に「ミニ学習会」と称して、おすすめツールを紹介しあったり、お役立ち情報は日常的に回覧・ファイルしたり、公私を問わず、研修参加時は職場へ還元するよう努めています。

小さな工夫の積み重ねで、暮らしに生きるレファレンス・サービスを広げていきたいですね。

# Do-Reを評する!

7名の方々からのメッセージ

『Do-Re』の茶目っ気に期待しています

訓子府町図書館 山田洋通さん

『Do-Re』通巻20号発行おめでとうございます。毎号楽しく読ませていただいています。

前号の「道内公共図書館Web版蔵書検索横断検索」の紹介記事は秀逸でした。茶目っ気が伝わりました。北大の村田さんが作成されたもの(通称「DOPAC」)が、今や道内の公共図書館で愛用されている(私もその一人です)現状がうかがえました。

さて、道立でも『Do-Re』をはじめ、『あけぼの号つうしん』などが発行され、情報の収集や原稿依頼など担当職員のご苦労が伝わってきます。誌面を読ませていただく勝手な立場ながら、今後への期待を込めて何点か茶目っ気を含めて。

道立が知らせたいものよりも市町村が知りたい情報を!(レファレンス技術情報はとても役に立っています。さらに、市町村が困っていることは何か。)

道立や市町村図書館はこれから何をめざしていくのか。(激変していく渦中の市町村図書館、また合併問題で道立図書館は力強いバックアップ、サポートを発揮していくか?)

確かに『Do-Re』とは直接的な関わりの部分ではないにしても、市町村図書館が生き残っていくために誌面を通じて支援をしていただきたいと思います。)

最後に私も参考調査課の皆さんへレファレンスをお願いしてもいいですか?

## 【調査事項】

近年異動が多いのか道立図書館の職員の方々をはじめ、道内公共図書館の職員を知りたい。他の図書館へ問合せにも支障がある。最新の『北海道図書館関係職員録』を入手したいのだが、どこに所蔵しているのか教えて欲しい。(今後『Do-Re』誌面の茶目っ気発揮にも期待して依頼してみました。)

レファレンス事例の交流を

旭川市東光図書館 杉山一彦さん

平成12年10月20日発行のNo.1(テスト版)から数えての通巻20号。コンスタントに発行が継続されていることに対し、まずもって敬意を表します。情報提供に感謝しております。

さて、地域の図書館に身を置き、日々苦戦している者として、感想など述べさせていただきます。

最近の号を見るにつけ、内容が盛りだくさん、文字がいっぱい、そのボリュームに少々気圧されてしまいます。落ち着いて読み込むためには、かなりの集中力と時間が必要です。

そんな中で、やはり毎号気になる記事は、レファレンス事例の紹介、そしてレファレンスブック解題でしょうか。レファレンス事例については、索引があると助かりますね。定期的な集約をご検討願いたいところです。

市町村図書館(室)スタッフとの交流が、発行の目的のひとつのことですが、市町村での日常業務で体験した、いろいろなレファレンス事例(難題・難問・珍問など)の紹介、その解決結果や顛末、道立図書館等のサポートは? など、きっと現場の者には興味津津なのではないでしょうか。あるいは、現在進行形の未解決事例のレポートなどは、解決のヒントや先例をみつけるチャンスにつながるかも..。

参考調査課を中核に、いろいろなレファレンス事例の交流が誌上でできるといいなあと思いますが、いかがでしょうか。あるいはもうすでに、どこかで実現しているのかな?(不勉強で...)

ともあれ、『Do-Re』をつうじて、市町村スタッフにも役立つ情報をこれからもいろいろな角度から、なるべくコンパクトに提供していただきたいと思います。

ついでに一言。北方資料室版『Do-Re』もあるといいですね。これまたご検討を。

## たかが「索引」、されど「索引」

福島県立図書館 吉田和紀さん

図書館で調べものをする子どもたちを見ていると、「索引」を使わない子が比較的多い。使えないのではなく、その概念がないのである。「本には“索引”や“目次”があってね…」と、実際に目の前で引いてみせる。調べ方のコツを一つ知ったことで、その子が、以前にも増して調べものが楽しく、上手に図書館を利用できるようになったのは言うまでもない。

私たち図書館司書も、情報提供業務の一つとしてレファレンスを行っている。いわば調べ方のプロである。そのため、研修などスキルアップ環境の整備にも取り組んでいるが、自己研鑽を促すものとして、まだ足りないと感じていることがある。それは「レファレンスの共有」である。事例紹介などの情報提供は以前より行われてはいたが、「共有」するものは事例だけではない。基本的ツールや依頼事項への取り組み方など、職員各々がレファレンサーとして、その経験の中で築いてきたもの全てを共有することが望ましい。

『Do-Re』はまさにそれを目指し実践している。また更に、レファレンスという切り口から、「相互協力」の理念を示し、共通認識としようとしている点は素晴らしい。

子どもにとって「索引」は発見であったに違いない。しかし、されど「索引」なのである。百科事典を引く時、「索引の巻」を手取る大人がどれだけいるだろうか。わかっているようで、間違った資料の使い方は情報を半分埋もれさせてしまう。正しく使うことで資料は活かされる。「資料の正しい(間違った)使い方」とでも言うのであろうか、道内の司書の方々が、その経験から習得された、「ツールを活かす使い方情報」の掲載を切望して、怠惰な図書館人の感想を閉じることとする。

最後に、同じ北日本の図書館人として、レファレンス情報提供に先鞭をつけていただいたことに感謝をするところであります。

## 何度もひもとく便利帖！

くにたち中央図書館(東京都) 藤村せつ子さん

「こんなのきました」「こんなのあります」など面白く読ませていただいております。情報誌(役立つツール)としての心意気を感じられ、私も日々の仕事に使わせてもらおうと思う頁がたくさんあります。

センスのある、サービス精神(司書魂?)にあふれた誌面づくりの陰には、多大な苦勞が...と想像しますが、他県の図書館職員(県立・市町村立問わず)にとっても、学ぶところが多く、励ましや希望を与えてくれるものです。

どの頁も、市町村図書館とのキャッチボール(双方向)の関係でありたいという思いが伝わってきます。

知識や経験を持ち寄って、共に役立つ図書館をめざそうと集う広場、あるいは現場の言葉や知恵がいろいろ詰まっている何度もひもとく便利帖ともいえそうです。

資料要求にこたえるということ、資料案内やレファレンスを日常の仕事として受けとめていくこと、道立図書館と自分の図書館とがどんな関係であり得るのか、連携してこそ目の前の利用者に還元できるものがあること、等々。当たり前のことだと言われそうですが、人が変わり、システムが変わるなかで、業務フローやノウハウの引継ぎだけでは見落としがちな基本や原点の精神や問題意識を共有できる資料(媒体)だと思います。

また、今の職員だけでなく、あとから来る職員にとっても、図書館の仕事を知ろうとするとき、『Do-Re』のバックナンバーを読むことで伝わるものがたくさんあるのではないのでしょうか。

『Do-Re』は、職員同士、図書館同士の相互理解を深めるうえで必要な通信である、との思いを強く持ちました。

## 輝やけ北海道！羽ばたけ『Do-Re』！

小平市中央図書館（東京都） 蛭田廣一さん

平成 12 年から刊行を続けている北海道立図書館レファレンス通信『Do-Re』が、今回 20 号を重ねることになるということで慶賀の至りです。『Do-Re』は毎号 10 ページを超えるボリュームと、道立図書館のレファレンス事例やレファレンス・ブックの紹介、研修報告、業務短信、市町村からの情報発信、News といった魅力的で有益な内容で満たされています。これだけのものを季刊で出し続ける参考調査課の皆さんのご苦労は、並大抵のものではないと推察します。その上、この内容がホームページに公開されているのは素晴らしいことです。

改めて記事を見直してみても私が特に注目したのは、特集のテーマが地域資料に関するものである 9（通巻 13 号）です。最初の北海道立文書館の報告「文書資料を主な題材として」を読んで、10 数年前に置戸町・訓子府町・北見市の図書館視察をした時に、道立文書館を視察させていただき、鈴江さんに案内していただいたことを懐かしく思い出しました。

そして、次の記事に目を移して驚きました。私も発表者として参加していた秋田での整理部門研究集会の参加報告が掲載されているからです。この中で根本先生は世帯情報サービスの課題に、「非流通出版物も収集し、提供すること。また情報を加工し、発信することも大切である。」と書かれています。このことは今後図書館が担わなければならない重要な課題ですが、『Do-Re』の実践はこの課題に積極的に取り組んでいる成果であり、研修を実践に活かしている好事例だと思います。

最後に、北海道といえば北広島市の SDI サービスや札幌市のビジネス支援といった先駆的な図書館サービスが始まっており、『Do-Re』にその報告が載る日を心待ちにしています。

今後の紙面の更なる充実を祈念して、輝やけ北海道！羽ばたけ『Do-Re』！

## 『Do-Re』にあるレファレンスのこころ

藤女子大学 下田尊久さん

ひょんなことから、『Do-Re』に辛口のコメントをと言われ大いに悩んだ。もとより、大先輩達を前にそのようなことが出来るはずもなく、これはなかなかの物と感心するばかり。『Do-Re』は、第一にとっても読みやすい。広報誌や研究誌ではないものをという編集方針が納得できる。第 2 に知識の宝庫の入り口になっている。誰が読んでも読み物としてなるほどと知識の増すような情報が詰まっている。第 3 にレファレンス・サービス担当者に勇気を与えてくれる。回答より、そこにたどり着くまでの気持ちが見えて、自分にも何か出来るという力が湧いてくるような感じがする。

あるテレビ番組で旭山動物園を取り上げていた。閉園の危機にあったこの動物園の人気挽回の秘密はどこにあるのかを探っていた。そこには長年培われた飼育系の経験と、入園者に園内の動物のすばらしい姿を見てもらいたいという熱い思いがあった。この動物園では飼育係を飼育展示係としたそう。生き生きとした動物たちの生態を見てもらうために、与えられた環境でその特性が発揮できるよう各飼育担当者が手作りで飼育環境を工夫し、その担当者が動物と一体となって来園者を喜ばせている。何故、飼育展示係なのか、素晴らしい発想の転換だと思った。まさに情報の発信の仕方を変えることで受け手に伝える中味を変えているのだと思う。

現代社会は「情報」を社会の資産、資源として捉えることで情報化社会と呼ばれ、図書館の役割が改めて注目されつつある。図書館においても、その役割は何か、司書とは何か、何故司書は必要か、カウンター業務に専門家はいるのかなど、根幹に関わる問いかけがなされている昨今である。図書館における利用者に対するサービスも動物園の飼育展示係と同じ視点が必要ではないか。整理業務をテクニカル・サービスとよび、閲覧業務をパブリック・サービスと呼んで何が変わるのか、また何を変えようとしているのか。レファレンス・サービスはどのようなのか。1950年代に米国で始まったレファレンス・サービスは、図書館の存在

意義を知らしめるためだったという。図書館は、情報資源としての蔵書を利用者に提供するために様々な工夫をし、それは成長し続けてきたが今や情報資源は館内にとどまらない。いまその存在意義はどのようにあるべきなのか。

道立図書館のイメージがこの20年間で大きく変わったと感じているのは私だけだろうか。現代のニーズを捉えて第2線図書館としての役割を果たしていると感じる。『Do-Re』は従来の広報の枠にとらわれず、補完しつつ、道立図書館の存在意義を体現していると思う。第8号に創刊の動機は都立多摩図書館の『しらべま専科』を知ったことによると書かれている。当時の姿はわからないが現在の『しらべま専科』は立派なレファレンス・データベースのようである。

『Do-Re』は今のままだが、いい。媒体は紙が読みやすい。と私は感じ、密かにこのままの姿で続いて欲しいと願っている。それは情報の蓄積のためではなくレファレンス・サービスの心を伝えるために。

## 『しらべま専科』と『Do-Re』が ゴールド・メダル

富士大学 斎藤文男さん

かつて現役の司書の時、私は都立多摩図書館のレファレンス交流誌『しらべま専科』の原稿を自ら書きまくったり、その影響力を利用して「原稿を書かせる」という共同作業を強いて、市町村立図書館の司書達をよく泣かせたものでした(現在の都立多摩やHP上の『しらべま専科』とはまったく違う、高いレベルで)。

そして同志(ヤング・アダルトの故半田雄二など)と密かに、「これ以上のレファレンス交流誌はネエよな!!」と自負していました。しかし、『Do-Re』を読んでその認識を改めました。

『しらべま専科』と『Do-Re』がゴールド・メダル

という思いです。

コンセプトがまったく同じなんですネ。

レファレンス・サービスというフィールドで、市町村立図書館が中核である、という立場  
レファレンスのスキル・センスを共有しようとする立場  
内容が道立と市町村立の共働・協働をめざしている 等々・・・

『Do-Re』編集子からは「辛口の批評を!!」との事でしたが、それはできませんねエ。

ただ、冊子体での刊行は是非続けてください。デジタルのみでは伝わるモノも伝わりにくい!

冊子体のバックナンバーをブラウジングして、意外な記事を発見しながらセンスをみがくのです。

デジタル系のスクロールは、卷子本(かんすぼん)と同じで、そういうファジー・センスは向上しません。それに定型で画一すぎます。

「物理的な距離差が大きすぎる」という、道立図書館の古くて新しい問題の対応策の一端が『Do-Re』冊子体なのです。





# NEWS

## 1 平成16年度秋期移動図書館事業、及び上川北部公共図書館（室）職員研修会に参加

当課宮本が「上川・網走地域」の移動図書館の巡回に参加しました。占冠村、愛別町、湧別町、和寒町の地区協力センターに伺い、研究協議では、「道立図書館からのおしらせ掲示板」により道立図書館の利用やお願いを呼びかけました。

また、和寒町で併せて開催された上川北部公共図書館（室）職員研修会では、当館市町村支援課長鈴木の「図書館をおもしろくする -公共図書館の展示-」と共に、「上手なレファレンス・インタビューとは」という題目で講師を務めました。

## 2 ホームページに各種様式アップ

当館への調査申込・貸出申込に関わる様式をホームページにPDFファイルで掲載しました。「図書館向けのページ」「利用案内」で各種様式へすすめます。ダウンロードによりご利用ください。なお、Wordの形式を希望される場合は、メールで送付しますので、ご連絡ください。

## 3 『実践型レファレンス・サービス入門』発刊

“Do-Reを評する！”に寄稿していただいた、シェルパ斎藤こと斎藤文男氏と藤村せつ子氏によるJLA図書館実践シリーズ第1弾となる本が日本図書館協会から出版されました。

公共図書館におけるレファレンス・サービスのあり方、事例を中心に図書館現場での図書館職員の研鑽に即役立つ“実践型”の本です。現役の司書が選んだ参考図書リストも添えられています。

## 4 『中・高生のための学校図書館利用テキスト』発刊

道内の中学・高校の図書館担当教師による学校図書館の利用テキストが出版されました。学校図書館を利用した授業の取り組みのためのガイドブックとして、また中・高生が図書館を利用するにあたって活用できる内容となっています。NIE（日本新聞教育文化財団）のホームページに詳細が紹介されています。

ホームページ：<http://www.pressnet.or.jp/nie/review12.html>

## 5 恵庭市立図書館、ホームページに「相互貸借条件」掲載

Web OAPC 公開館の増加により、市町村図書館間における相互貸借の量が飛躍的に伸びています。特に他館へ貸出す数が借受け数よりも大きく増大した図書館もあります。

恵庭市立図書館も貸出し業務が増大している図書館のひとつで、貸出資料の範囲を9項目定めた「相互貸借条件」を8月に掲載しました。

借受申込みの際は、ご一読いただくようお願いします。

ホームページ：<http://www.city.eniwa.hokkaido.jp/mmb/090730/090730.html>

## 6 『ウィークリー出版情報 No.1107』に道内公共図書館から発信！

標記の出版情報誌（日販図書館サービス 2004.9.2）の「司書のひとりごと。」コーナーに清水町図書館の山本明子氏の文章「今さらながら十二国記」が掲載されました。皆さんご覧になりましたか。

## 7 必見！“リーガル・リサーチ練習帖”

本誌No.12（通巻16号）の「こんなのあります -いちおしレファレンス・ブック-」でも紹介しました『リーガル・リサーチ』（日本評論社 2003.3）の著者のお一人である、いしかわまりこ氏による法令・判例と法学文献を主な対象とする法情報収集のための論文が、雑誌『法学セミナー』（日本評論社）の49巻4号（2004.4）と49巻8号（2004.8）に特集として掲載されています。Part1（基礎編）Part2（応用編）と組まれていて、法情報のスキルが身につきます。

## 8 第46回北海道図書館大会に参加

標記の大会が「図書館の発展の可能性を探る」のテーマで、10月14日(木)～15日(金) ホテルライフオート札幌において開催されました。国立国会図書館関西館事業部図書館協力課長児玉史子氏による基調講演につづき、館種別の分科会がもたれ、協議を深めました。2日めは、日本図書館協会岡田奈美氏から映像著作を中心とした著作権の情報提供もありました。

当課佐藤が第1分科会(公共図書館)「みんなが使える図書館へ～広がるニーズ、広げるサービス」の進行を務めました。

【訂正】 No.15(通巻19号)の記事に誤りがありました。訂正します。

5ページ 本文3行目

来年度の機器更新

来年1月の機器更新

## 編集後記

みなさんからどんな原稿が寄せられるのかと、とても楽しみでした。ご意見・ご要望には謙虚に耳を傾け、また見習うべきはどんどん採り入れ、更にステップ・アップしていきたいと思います。今回ご紹介できなかった市町村のみなさんも、ご意見や情報提供をお待ちしています。(ひ)

我が家に新しいパソコン(デスクトップ)が来ました!! ダイアル回線からADSLに変えたこともあって、ネット検索が今までに見たことがないくらい速くなり、改めてインターネットの便利さを実感!あとは、普段の仕事にも生かせるような、技能や知識があれば……。ガンバリマス!(I)

今回のDo-Reは執筆して下さった皆様のおかげでいつもより面白いような気がします。次回はこれに負けないようなものを作らないといけないのかなぁと思うとプレッシャーが...(H)

市町村の皆様方のご協力をいただき、いつもとはひとあじ違ったDo-Reになりました。やってみて良かったと思っています。今後は企画面のご意見もお寄せいただきたいと思いますね。

投稿もお待ちしています。(S)

ご協力いただいた皆さん、本当にありがとうございました。「～評する!」の企画は、時期尚早との思いもありましたが、思い切って全国規模の視野からご意見・ご感想をいただきました。

読み応え(質・量とも)ある特別号です。

次号は、通常の連載枠を続けつつ、また新たな内容を盛り込んでいく予定です。

読後の感想をお寄せください!(宮)



## Do - Re(どうれ) の由縁

“ どうりつとしょかんレファレンス ” の  
略から名付けました。

しかしながら

“ どれどれレファレンス ” からとの説もあります。

---

THE REFERENCE NEWSLETTER OF HOKKAIDO PREFECTURAL LIBRARY

## Do-Re

北海道立図書館レファレンス通信 16(通巻20号)

発行年月日 平成16年11月12日

編集 北海道立図書館参考調査課

発行 北海道立図書館

〒069-0834 北海道江別市文京台東町41番地

TEL 011-386-8521 FAX 011-386-6906

<http://www.dokyoi.pref.hokkaido.jp/hk-tosho/top.htm>

---